

2006年7月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2006年6月度 高島屋営業報告

【総計】(前年対比、単位：%)

(株)高島屋計	分社4店含む実質
+0.8	+1.1

6月度は百貨店事業、広域事業ともに前年売上実績を上回り、分社4店含む実質では+1.1%となった。前年実績のクリアは昨年9月度以降、10ヵ月連続となった。

分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

分社4店除く	18店計
+0.6	+1.0

天候不順の影響が衣料品や雑貨等に見られたが、高額商品の宝飾品・美術・呉服や中元受注が堅調な食料品、各種営業施策の奏功、によって前年売上実績を1.0%上回った。伸び率はやや鈍化したものの、9ヵ月連続の前年プラスとなった。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	+1.4	+1.2	+2.3	1.6	+28.3	+0.2
入店客数	5.8	0.5	+2.6	3.5	+38.7	1.4

大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関西地区合計	
分社3店除く	9店計
+1.4	+2.3

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+1.7	+0.4	2.2	+2.2	3.8	1.3	+0.3	+0.7
入店客数	+2.0	2.0	7.4	3.7	2.0	3.5	4.1	6.9

横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

横浜店の入店客数は単店になります。

関東地区合計	
分社1店除く	9店計
+0.2	+0.2

関西地区では9店中7店が前年売上実績を上回った。大阪店は特選衣料雑貨や婦人服等が伸び悩んだが、紳士・婦人雑貨や宝飾品、呉服、食料品等が前年実績を上回った。京都店は紳士雑貨や特選衣料雑貨等が低調であったが、宝飾品や呉服は前年から2桁売上を伸ばした。また、岐阜店、泉北店、洛西店はリニューアル効果が持続している。

関東地区では9店中6店が前年売上実績を上回った。東京店は改装効果が続く呉服、リビング、美術等の高額商品群や食料品等が売上を伸ばした。横浜店も美術、宝飾品、特選衣料雑貨等の高額商品群や食料品等が前年実績を上回り、低調な衣料品・雑貨等を加減した。新宿店は宝飾品が前年から2桁増、食料品も堅調であったが、衣料品・雑貨等が伸び悩んだ。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域事業計
売上高	+12.5	7.5	+3.6

法人事業は、企業向け販促品等で新規の大型物件の受注があり、前年売上実績を大きく上回った。通販事業は、婦人雑貨や宝飾品が好調であったが、紳士・婦人衣料品やリビング、食料品等が伸び悩み、前年実績に至らなかった。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)](前年対比、単位：%)

	(株)高島屋計	分社含む実質
紳士服・洋品	3.9	3.4
婦人服・洋品	2.4	1.7
子供服・洋品	0.2	+0.3
その他衣料品	+1.9	+1.4
衣料品計	2.3	1.8

	(株)高島屋計	分社含む実質
身のまわり品	0.4	+0.0
家具	0.2	0.1
家電	8.6	8.4
その他家庭用品	+0.8	+0.9
家庭用品計	0.1	+0.1

	(株)高島屋計	分社含む実質
食料品	+3.0	+3.4
食堂・喫茶	4.0	3.0
雑貨	+6.4	+6.2
サービス	+5.7	+4.6
その他	+3.6	+5.4
合計	+0.8	+1.1

当社分類による百貨店事業の商品別概況

ファッションアイテムは日照不足による低温や多雨の影響を受け、夏物商材の動きが鈍かった。紳士服(前年対比 0.8%)は、ケルビスのスタイリングで定着したジャケットが好調な反面、Tシャツやポロシャツ等の夏物軽衣料等が低迷した。婦人服(同 1.2%)はトレンドアイテムであるワンピースやジャケット、ベスト等は動いたが、カットソーやシャツ、ブラウス等が伸び悩んだ。婦人雑貨(同+2.2%)では帽子、サングラス、扇子等が不調であったが、婦人アクセサリ、ハンドバッグ等の主要アイテムは堅調に推移した。食料品(同+3.8%)は早期の中元受注が堅調に推移し、売上を伸ばした。その他、美術(同+4.4%)、宝飾品(同+3.7%)、呉服(同+2.7%)、リビング(同+1.1%)等が前年実績を上回り、特選衣料雑貨(同 2.5%)、子供服等(同 1.0%)は前年実績に至らなかった。